

# 縄文文化の位置づけと特徴

## 【世界史的な位置づけ】

縄文文化の名前にある「縄文」とは、この時代の土器の多くに縄目の紋様が付けられていることに由来します。縄文土器の形や紋様には優れた芸術性が認められ、時期や地域によっても多様な変化がみられます。

縄文文化の始まりは、この土器の使用と定住化の実現をもって定義されます。現在、最古級の土器には青森県大平山元遺跡出土のものがあり、放射性炭素による年代測定の結果、約1万5千年前の値が得られています。一方、縄文文化は、穀物の栽培を主な生業とする弥生文化に置換される形で終焉を迎え、その年代は約2千5百年前と考えられています。

世界史のなかで位置づけると、例えばヨーロッパにおける旧石器時代の一部から新石器時代、青銅器時代を経て鉄器時代にまで及ぶ長大な時間が縄文時代の存在した年代に相当します。また、土器や磨製石器の使用、あるいは定住化の実現という文化要素で見ると、縄文文化はユーラシアの新石器文化と対比されます。



縄を転がして縄目紋様をつける

	B.C.13,000	B.C.9,000	B.C.5,000	B.C.3,000	B.C.2,000	B.C.1,000	B.C.300	A.D.300	A.D.600	A.D.800	A.D.1,200
日本	旧石器時代	縄文時代					弥生時代	古墳時代	飛鳥時代	平安時代	鎌倉時代
		草創期	早期	前期	中期	後期					
北海道	旧石器時代	縄文時代					続縄文文化	擦文時代		アイヌ文化期	
		草創期	早期	前期	中期	後期		晩期	オホーツク文化		トビニアイ文化
西欧	旧石器時代	中石器時代	新石器時代	青銅器時代	鉄器時代	ローマ帝国					

## 【縄文文化の特徴】

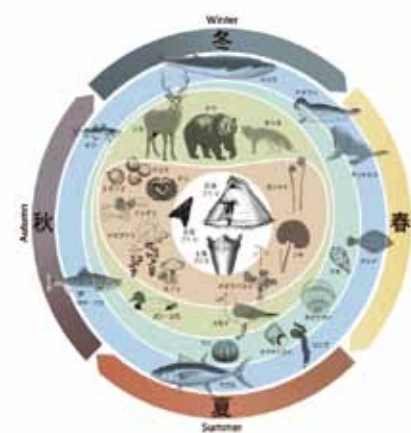
縄文文化の最大の特徴は、単に長期間存続しただけでなく「1万年以上も自然と共生しながら定住生活を実現した」点にあります。

ユーラシア西部の主な新石器文化をみると、概ね農耕・牧畜の開始とともに定住生活に移行していますが、そこで定住の開始とともに森林の消滅が始まったのとは異なり、縄文文化は自然環境を大きく改変することなく、狩猟・採集・漁労を基盤として長期間の安定した暮らしを実現しました。また、縄文文化が存続した1万年間には何度か大規模な気候変動が起こり、火山噴火や地震等の大きな災害もありましたが、当時の人々は巧みに環境に適応し、縄文文化の伝統を維持しました。

こうした自然との関わりのなかで、この文化に固有の文化的伝統も生まれています。植物繊維を使って籠などを作る編組技術、ウルシの樹液を採集・精製・加工する漆工技術は、植物の特性を熟知しなければ成立しない大変高度なものです。また、実用的な道具だけではなく、粘土で人形を造形した“土偶”も作られました。命の再生や循環を願っていたものと思われ、高い精神性が窺えます。



縄文時代中期の円筒土器



縄文カレンダー（小林達雄氏作成の図に加筆）  
四季による生業のようすを示す



クワ



シカ



ウニ



マグロ・ヒラメ

クジラ

遺跡から出土した当時の食料